

英米文学科・立教英米文学会 活動報告

立教英米文学会

2001 年 12 月 8 日

<研究発表>

梶原 照子 (立教大学英米文学専攻後期 3 年次)

Li-young Lee の詩を読む

— gender, identity, intersubjectivity

蒲池 美鶴 (立教大学英米文学科教授)

‘Too Much in the Sun’: ハムレットとアナモルフォーズの宇宙(1)

杉本 孝子 (中央大学兼任講師)

CALL ラボで広がる想像力の世界

— 『ハリー・ポッターと賢者の石』を読む

<講演会>

高田 賢一 (青山学院大学教授)

主題としての子ども—アメリカ小説の世界から

柴田 元幸 (東京大学助教授)

1980 年代以降のアメリカ文学

公開講演会

2002 年 3 月 20 日

Dr. Elizabeth Closs Traugott (Stanford University)

“Comparing Representations of an Execution:
Newspaper Reporting vs. Fiction”

(実行表象の比較: 新聞報道対フィクション)

<編集後記>

2001 年は、立教構内からケルト十字架が発掘されたり、江戸川乱歩邸購入が決まるなど、ミステリーにみちた年でした。それにふさわしい内容の『英米文学』になったのでしょうか？

(文責 蒲池 美鶴)